

平成30年

# 能 泉 涌 流 多 喜

第七十九回

平成三十年十一月十日(土) 一時始

仕舞 天鼓 高林 呻二

一曲独吟 三井寺 高林 白牛口二

是界 高林 昌司

主催 高吟会

## 大江能楽堂

京都市中京区押小路通柳馬場東入ル 電話 075-231-7620

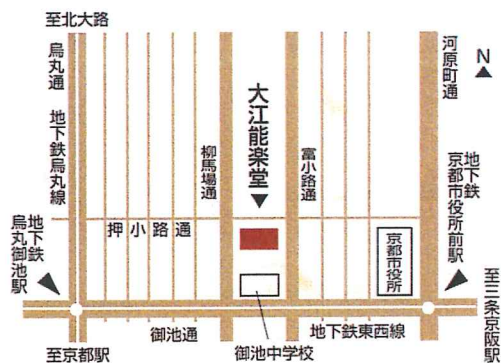
入場料 前売 7,000円 学生券 3,000円  
当日 8,000円 全席自由席

問合せ先 〒603-8354 京都市北区等持院西町15 高吟会

電話075-462-1490 FAX.075-463-3494

E-mail koginkai@ares.eonet.ne.jp

URL <http://www.eonet.ne.jp/~koginkai/>



地下鉄「烏丸御池」または「京都市役所前」下車。徒歩約10分。

動 静 以 天 地  
視 哉 涌 泉 美

鈿 之 翁

涌 泉 能 番 組

仕 舞 天 鼓

高 林 呻 二

一 曲 独 吟 三 井 寺

高 林 白 牛 口 二

是 界

高 林 呻 二  
高 林 昌 司

中 村 宜 成

福 王 知 登  
喜 多 雅 人

間 茂 山

河 村 真 之 介  
曾 和 鼓 堂  
前 川 光 範  
竹 市 学

休 憩 二 十 分

「謡」は声楽である

高 林 白 牛 口 二

私は八十年の年齢を過ぎて、体力の衰えを足腰に感じるようになって、一曲の能を舞う事の限界を知り、能を舞うことから引退しましたが、体力が全部無くなった訳ではありません。私にはまだ声が少しは残っています。肉体の中枢に気力を充満し、全身から余分な力みを排除し、柔和な発声に依る響きによって謡えば、聴く人々の心に感銘を与えるような「謡」を謡う事が出来ると、考えるようになりました。

私は以前から、能の中の「謡」といわれる分野を、一つの声楽として聞かせることが、出来ないかという願望を持っていました。知人のピアニストからも、この事を実現させたらと云う提案もあり、いつかはこれに応えたいと、思い続けていました。これらを目標として、数年前から「謡を聴く会」を東京で始めました。この度は、本拠地京都の皆さんの要望にこたえて、「三井寺」の一曲独吟を聴いて頂きます。

澤木政輝氏が「能楽タイムズ」に、「決して美声とは云えない声を駆使して、ざわつく場内の耳目を集中させ、引き込み、酔わせる謡の力を目に当たりにした。大きく拡散する声に、目の前が開けるような感覚が広がったのに驚いた」と私の独吟を評して書いています。これは「謡」が声楽であることを、具体的に証明しています。声楽としての「謡」の花が、開花したのです。

声楽として成り立たせる第一の条件は、文字が正確に聞き取れることだと思います。これは自分の言葉として、言葉を相手に伝えるという意識を持って謡えば良いのです。「謡」を声楽として、お聴かせ致します。どうぞ「謡」の持つ声楽の魅力を、楽しんでお聴き下さい。

次 回 予 告

平 成 三 十 年 十 二 月 七 日 ( 金 ) 十 八 時 始

第 六 回 高 林 白 牛 口 二 の 謡 を 聴 く 会

於 喜 多 能 楽 堂

一 曲 独 吟 野 宮 高 林 白 牛 口 二

一 調 笠 之 段 高 林 白 牛 口 二 大 倉 慶 之 助

主 催 高 吟 会

許 可 なく 写 真 撮 影 録 音 録 画 は、堅 く お 断 り 致 し ます。携 帯 電 話 ポ ケ ッ ト ベ ル 時 計 の ア ラ ー ム は、予 め お 切 り 下 さ い。